



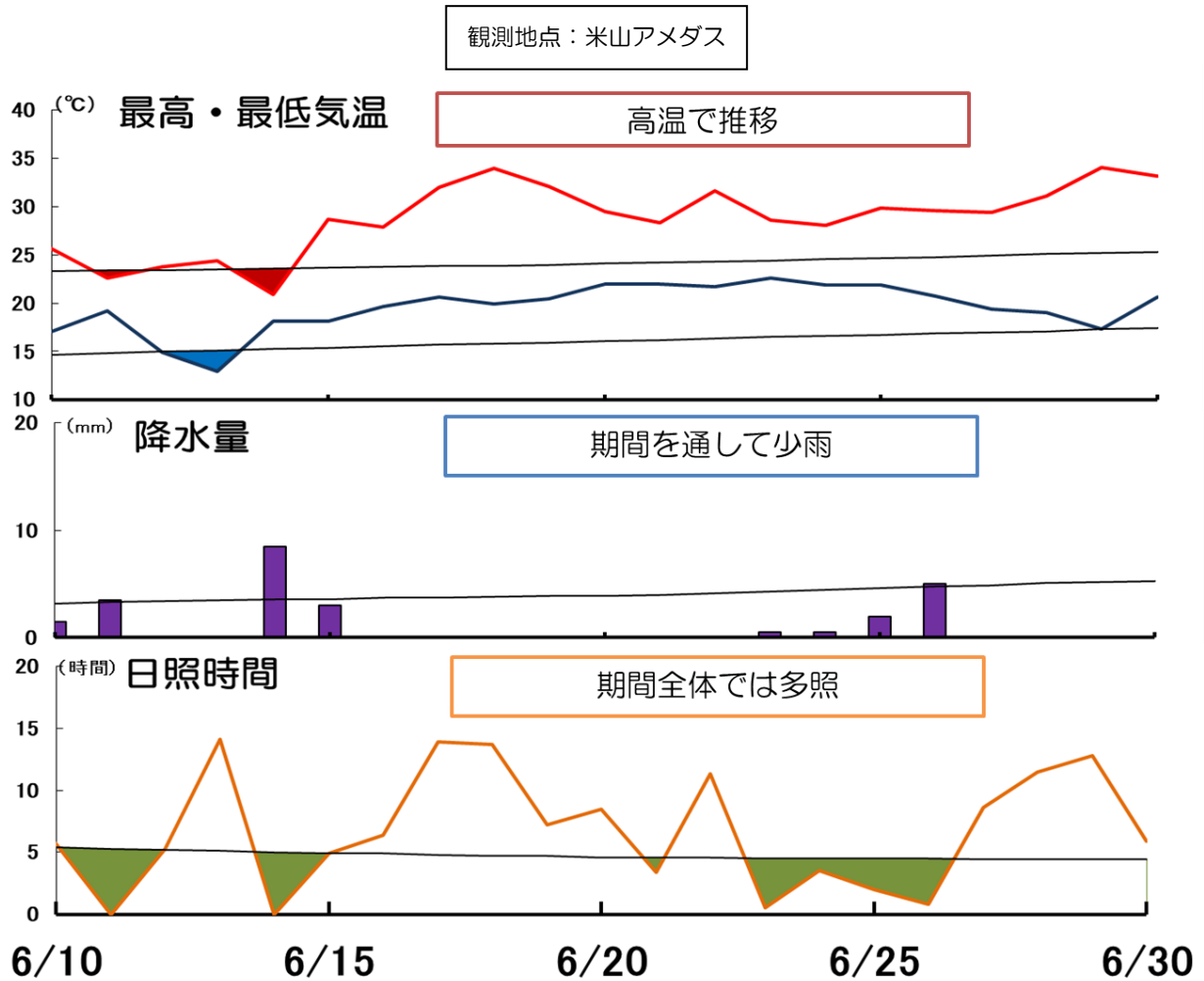
登米地域の稲作通信 第5号

令和6年7月2日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】



6月下旬の最高気温は平年より5.7℃高く推移し、気温の高い日が続きました。降水量はほぼ雨のない日が続き、平年比17%と平年を大きく下回りました。日照時間は23～26日に平年を下回りましたが、その後は天気の良い日が続き平年比135%と上回りました。

6月はひと月を通して気温が高く推移し、日照時間は平年比139%と高温多照となりました。また、降水量は雨のない日が多く平年比33%と少雨傾向となりました。

【東北地方の向こう1か月の天気予報】 令和7年6月26日 仙台管区气象台 発表
期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。天候は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。平均気温は高い確率80%です。

【移植栽培】

1 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m)	移植日	6月20日			7月1日		
						草丈(cm)	莖数(本/m)	葉色(GMI)	草丈(cm)	莖数(本/m)	葉色(GMI)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	16.0	前年比・差 +2日	30.8	320.0	41.0	54.8	504.0	42.0
						98%	128%	0.2	110%	106%	1.1
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	15.9	前年比・差 +5日	30.9	186.0	42.2	54.1	375.2	44.0
						89%	62%	-1.7	101%	74%	2.0
3	ササニシキ	Cタイプ (復活サシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日	35.5	328.0	38.2	49.9	400.4	34.9
						103%	117%	-3.2	102%	87%	-4.0
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.7	前年比・差 +5日	46.6	416.1	39.3	61.2	447.5	34.9
						96%	76%	1.4	100%	81%	-1.7
5	だて正夢	-	迫町	18.6	前年比・差 +1日	42.1	461.3	43.6	71.3	552.4	40.1
						102%	124%	3.7	122%	111%	-1.0
7	つきあかり	-	豊里町	19.1	前年比・差 -1日	47.8	362.9	41.6	66.8	340.0	37.1
						90%	98%	-0.9	94%	90%	-2.1

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和2年～令和6年）の平均値。

※つや姫、つきあかりは調査2年目のため、本年値、前年比・差を記載。

7月1日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈は平年を上回って推移しています。莖数は有効莖数以上を確保しているほ場もあり、中干しの時期に入っています。ササニシキ、つや姫の草丈は平年並ですが、莖数、葉色は平年を下回っています。だて正夢の草丈、莖数は平年、前年を上回っていますが、葉色はやや下回っています。つきあかりの草丈、莖数、葉色は前年をやや下回っています。また、つきあかりの幼穂長は2.7mmとなっており、幼穂形成始期を過ぎています。

2 今後の管理

(1) いもち病対策

米山のアメダスでは6月24日に葉いもち感染好適条件が出現しています。ほ場をよく観察し、早期発見に努めましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米で発生が見られた場合はJAにご相談ください）。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況 (BLASTAM 令和7年度)																		
日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	●	-	-	●	-	○	●	●	-	●	●	○	-	●	-	-	-
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	●	●	●	●	-	●	●	●	-	-	●	●	●	●	-	●	●	-

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

(2) 紋枯病対策

高温年では紋枯病の発生が多くなる傾向があり、昨年は多くのほ場で発病が見られ、また、一部で病徴の進展したほ場も見られました。昨年発生したほ場では、ほ場に菌が残っており本年も発生することが懸念されます。紋枯病は、倒伏や白未熟粒の発生原因にもなるので、多発が予想されるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。防除適期は穂ばらみ期から出穂期で茎葉散布剤が株元の葉鞘までよくかかるように散布しましょう。

要防除水準（収量が5%以上の減収を想定する場合は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です（環境保全米で防除を検討する場合は、JAまでご相談ください））。



上位進展した病斑

(宮城県病害虫防除 病害虫ライブラリー)

(3) 斑点米カメムシ類対策の畦畔除草

今年度も、既に水田周辺の雑草でアカスジカスミカメやホソハリカメムシの生息が確認されています。着色粒発生抑制のため、畦畔の除草を行い対策しましょう。

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。アカスジカスミカメ第1世代幼虫の発生ピークとなる7月上～中旬が除草適期となります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の出穂15～10日前までに終了するようにしましょう。管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日ですので、遅くとも7月20日ごろまでに草刈りを終了するようにしましょう。

(4) 生育ステージの予測値および今後の水管理

生育ステージの予測値（7月1日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	7/1～7/5	7/3～7/7	7/6～7/10	7/10～7/14	7/14～7/17
出穂期	7/29～8/1	7/31～8/3	8/2～8/5	8/5～8/8	8/8～8/11

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は6月30日までの米山アメダスの実測値。

管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日です。中干しは幼穂形成期（幼穂長1mm程度）までに終了しましょう。

移植時の葉齢を2.5～3.5葉とした生育ステージの予測値を算出しました。管内の田植え盛期は5月12日となっており、5月10日に移植した場合、幼穂形成期は7月3日～7月7日頃、出穂期は7月31日～8月3日頃となる見込みです。ただし、今後気温の高い日が続くと出穂期が早まる可能性があります。

(5) 追肥

葉色が低下してきているほ場が見られます。穂揃期以降も葉色を維持することで、高温による白未熟粒の発生を抑制することができます。ほ場をよく観察し、追肥の判断をしましょう。

環境保全米で有機質肥料を追肥に用いる場合は、有機質の分解に時間を要するので化学肥料よりも早めに施用しましょう。

環境保全米では、栽培期間中（育苗+本田）に使用する化学肥料の窒素分量が決まっています（合計3.5kg/10a）ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

追肥の施用時期によって、倒伏や玄米タンパク質の増加などの影響があります。適切なタイミングで追肥を行いましょう。

表 生育ステージと生育量の目安

ひとめぼれ	幼穂形成期 7月10日頃	減数分裂期 7月20日頃
草丈(cm)	56~59	66~69
茎数・穂数(本/m ²)	470~530	450~500
葉色(SPAD)	38~40	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

ササニシキ	幼穂形成期 7月13日頃	減数分裂期 7月23日頃
草丈(cm)	62~68	-
茎数・穂数(本/m ²)	720~760	550~580
葉色(SPAD)	34~36	32~34
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	1~1.5

だて正夢	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数・穂数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色(SPAD)	40~42	37~39
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	2

金のいぶき	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	65~70	80~85
茎数・穂数(本/m ²)	570~620	490~540
葉色(SPAD)	33~35	30~32
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

つや姫	幼穂形成期 7月16日頃
草丈(cm)	70~75
茎数・穂数(本/m ²)	550~580
葉色(SPAD)	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	2

※幼穂形成期、減数分裂期の目安日は宮城の主要優良品種の栽培ごよみに記載の日付です。

【穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響】

		生産要因への影響					
		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂首分化期	○	○		×	×	
	穂揃期				○		×

◎ 効果高い ○ 効果あり × 悪影響あり ×× 悪影響強い

【直播栽培】

1 生育状況

【水稲生育調査結果(乾田直播)】

No.	品種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数(本/m ²)	6月20日			7月1日		
							草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(GM)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(GM)
1	ササニシキ	ブ ² 効耕 グ ¹ レ ¹ ドリ ¹ ル ¹ 体 ¹ 系	米山町	4月26日	前年比・差 110%	87.2	35.5	228.3	33.5	45.7	391.5	32.8
					113%		97%	73%	-1.4	99%	87%	-3.9
							103%	124%	-3.0	112%	108%	-4.7

※ササニシキは調査5年目のため過去4か年の平均値を使用。

7月1日現在、管内の生育調査ほのササニシキは草丈、茎数は平年を上回り推移しています。葉色は平年をやや下回っていますが順調に生育しています。

2 今後の管理

(1) 生育状況に応じた水管理

乾田直播では播種時の鎮圧によりほ場が固いので、収穫機械作業に支障がない場合は、中干しは不要です。ただし、播種深度が浅く、根の支持力が弱い場合等は中干しを行いましょう。

(2) 追肥

移植栽培と同様に葉色の低下が見られたら、追肥を実施しましょう。流し込み追肥用肥料を活用することで省力的に追肥を実施することができます。

農薬危害防止運動実施中 (令和7年6月1日から8月31日まで)

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため農薬は適正に使用しましょう。